

「80代の上り坂」に挑む気概

傘寿という大台に入りました。人生の最終章をどう生きていくか？ 3年ほど前に亡くなった5歳ほど年上の友人の言葉を思い出します。彼は現役時代には誰もうらやむレベルの高い都立高校の校長をしていました。定年になってからは地元のシルバー人材センターで高齢者を対象としたウォーキング・グループの世話をする仕事をしていましたが、80歳を超えたあるときポツンと言ったのです。

「80を超えて十分に生きてきた。やり残したこともない。もう死んでもいい」。人生経験も豊かで身体も大きく頑丈でゴルフも名手だった彼がこんな言葉を口にしたことに私は考え込んでしまいました。“ああ、そんな風に考える人もいるんだ”・・・

五木寛之氏の著書の中に「思っていたより長い人生の下り坂」との言葉がありました。また先年亡くなったシニアのアイドル・日野原重明氏と心理学者・多湖輝氏との対談した著書のタイトルは「長生きすりゃいいってもんじゃない」でした。どちらも人生の達人の言葉です。反対角度から見れば、訴えたい本質は“いかに老後を充実させて生きるか、また社会のために役立っていけるか”にあるような気がします。一方、医師は長寿の手助けはできるが長くなった人生をどう生きていくべきかのアドバイスはできない、とも言われます。

人々の幸せと世界の平和を目指した広宣流布という創価学会が進めている活動は、まさに高齢者の生きがいと人間として最も尊い生き方に通じていると思うところです。私も人生の年齢の節目毎に決意したいなものを綴ってきましたが、そのお蔭でより充実した人生を送ってこられたと感謝しています。そこで、今回は最後（あるいは米寿の際、再度）になるかもしれない残りの人生への計画と決意をまとめてみました。

以下はその土台となる人生の師からいただいた指針です。

指針としていきたい池田大作先生の言葉の数々

(これまでも紹介した中から高齢者向けにしぼったものです)

- 人生の持ち時間は長い目で見れば、各人、大差ないものだ。要はどれだけ「深く生きた時間」をつくったかである。その集積が人生の宝となる。
- 祈りの中身がその人の境涯である。志が人を作る。大きな志は大きな人生を作る。
- 定年を迎えてからその人の真価がわかる。退職してからが信心の真価を発揮する本舞台である。
- 創価とは学び続ける人の異名である。
- 年配者が青年になること。これが一番のカギだ。自分自身が若々しい気概で開いていくこと。夢を追ってチャレンジしている人はいつまでも若々しい。
- 声は力だ！ 勇気の声、希望の声、生命力のある声、張りのある声で皆に元気を与えていくのだ。道を歩くときも、さっそうと歩き、会員、同志の皆さん、近隣の方々となすがすがしい挨拶を交わしていくのである。一人ひとりが学会の全権大使である。
- 要するに、最後の最後に会心の笑みを満面に浮かべられる人生かどうかである。生涯を振り返り、「自分は人生に勝った。楽しかった。悔いはない」と言える人が勝利者である。

- 信心こそ最高の財産である。我が子に正しき信心を継承していくことこそ、親子して、また家族共々に永遠の幸福の軌道を歩み行くもっとも確かな道である。
- 晩年における最高最大の信心の実証とは何か——財産や地位、名誉ではない。ありのままの人間としての人格の輝きにある。皆を包み込む温かさ、人を思いやる心、不屈の信念、あくなき向上心・・・それらが育む精神の光彩こそが人格の輝きと言ってよい。信心の先輩たちが人々から慕われ尊敬され信頼されていくなれば、それがそのまま広布の広がりとなっていく。そうした方々の存在こそ全同志の誇りであり、創価の無常の宝である。
- 「創価学会とは何ぞや」と聞かれたら「私を見てください」といえる自分になろう。「創価学会の〇〇さん」と地域の人々から称賛される存在になっていくこと。「誰がなんといおうと、自分は偉大な創価学会の代表だ」と胸を張っていく。I am the Soka Gakkai. でいこう。
- 戸田先生：「いつ臨終になっても悠然と従容たる人生であれ。信心であれ」

そして：

創価学会創立 100 周年(わが米寿)に向けての祈りと目標

- ◇ まず池田先生ご夫妻が健康で創立 100 周年までお元気でいらっしゃること。
- ◇ 自身も 100 周年まで健康で、これまでの経験・能力を活かし世界広布に最も価値的に最大限の貢献をしていくこと。
- ◇ 妻も子供たち、兄弟も無事健康で広布貢献につながる道を歩んでいけること。4 人の孫が広布の大人材へと成長していくこと。
- ◇ 市から依頼され立ち上げたシニアの英会話教室が今年で開講 10 周年となる。これからも頑張れる限り続けていく。脳トレに最高の場だ。
- ◇ 地元の中学校の学習支援員として役立てる限り関わっていく。やることあることが生き甲斐となり元気の素となるから。
- ◇ 本年 4 月アキシマエンスで開講する「世界文学を学ぶ会」でこれまでの文学紀行の総まとめをする。それを 10 月から府中での TAMA 市民塾につなげていく。
- ◇ 100 周年までにつつじが丘団地住民の 10%が学会員また学会の理解者・支援者になっていくこと。まずはしっかりと祈り行動に移していく。
- ◇ サンタメロカ（横田基地）のアメリカ人メンバーを最も効果的にサポートしていくこと。そのためこれからも不断の英語の研鑽が欠かせない。
- ◇ オリンピックが順調に開催され、大会ボランティアとして海外経験、語学（英語・スペイン語）を最大限に活かし貢献していくこと。人生最後の晴れ舞台としていきたい。
- ◇ 学会についての理解を広げていくために 15 年前に立ち上げたホームページ、ブログを活用し引き続き記事や写真を発信していく。積極的な投稿活動も。
- ◇ コロナには絶対に感染しない。ウォーキング、スイミング、テニス、ゴルフで身体を鍛える。料理も意欲的に。ギターも座談会の盛り上げに！
- ◇ そしてすべての原動力は勤行と唱題。2030 年まで 1 日最低 3000 遍、年間 100 万遍以上。8 月に入信 60 周年で 6000 万となる。創立 100 周年に 7000 万遍を達成する。

以上